

三味線親しむきっかけに

八工大

自動採譜 伝統音楽28曲の楽譜

青森



寄贈式で楽譜を寄贈した小坂谷教授（左から3人目）ら

採譜で使ったエレクトリック三味線と寄贈された楽譜



八戸工業大学は5日、自動採譜装置で昨年初めて楽譜化に成功した「津軽じょんがら節」など東北地方の伝統音楽28曲の楽譜を県総合学校教育センター（青森市）に寄贈した。県教委は楽譜を希

望する学校に提供し、授業や部活動に活用する方針だ。

自動採譜は、パソコンにつながった「エレクトリック三味線」を使って演奏することで、コンピュータソフトが音色を解析して楽譜にする仕組み。「エレクトリック三味線」は、共鳴したり雑音が出たりして採譜に影響しないよう独自に設計した。一般的な楽曲であれば約5分で西洋音楽の楽譜や三味線の楽譜にできる。

同大学院の小坂谷壽一教授は、津軽三味線奏者の松田隆行さん(47)と八戸市出身、仙台市在住とと共に研究を進め、16年には自動採譜した民謡の楽譜を同センターへ寄

県総合学校教育センターに寄贈

贈した。しかし素早く連続して音を出さなければならぬため難関といわれていた「津軽じょんがら節」や「八戸よされ大漁節」などは楽譜にできていなかった。

小坂谷教授は「(研究開始から)10年以上かかったが、津軽じょんがら節などの楽譜を学校や三味線の継承者へ無償で提供できるように良かった。今後は譜面のない楽器の曲の譜面化に挑戦したい」と意欲を見せた。

同センターで行われた贈呈式で、同大の橋本都副学長から楽譜を受け取った、同センターの白戸爾所長は「これまで三味線を使って深く学ぶ機会がなかった。楽譜を使って少しでも三味線を使った音楽をする機会をつくりたい」と話した。

(村上敦哉)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」